

養豚飼料としての甘藷及び澱粉粕における煮熟の効果について

栗原 武*・今村 照久*

KURIHARA, T. & IMAMUKA, T. The Effect of Boiling on Sweet Potatoes and Starch Feeds as a Hog Feed

養豚飼料としての甘藷及び澱粉粕における煮熟の効果をj知るため下記の通り飼養試験を実施した。

(1) 甘藷の場合

- a. 幼豚飼養試験, ヨークシヤ-種♂2, パークシヤ-種♂2 (生後 100 日), 50 日間 (甘藷の配合割合は風乾比で 60%)
- b. 中豚飼養試験, ヨークシヤ-種♀3, ♀1 (生後 180 日), 50 日間 (甘藷の配合割合は風乾比で 60%)

(2) 乾燥澱粉粕の場合

- a. 第 1 次肥育試験, パークシヤ-種 4 (生後満 8 ヶ月), 60 日間 (澱粉粕の配合割合は風乾比で前 30 日間 59%, 後 30 日間 62%)
 - b. 第 2 次肥育試験, パークシヤ-種 2, ♀2 (生後満 7 ヶ月), 30 日間 (澱粉粕 45%)
 - c. 育成試験, ヨークシヤ-種 2, ♀2 (生後 100 日) 80 日間 (澱粉粕 35%)
- 供試澱粉粕は品質中等 (一部黒変したものがあった。) のもので, 水浸は 2 昼夜行つた。試験成績の概要について述べれば下記の通りである。

区 分	乾 燥 澱 粉 粕						甘 藷			
	第一次肥育試験		第二次肥育試験		育 成 試 験		幼 豚		中 豚	
	煮熟区	水浸区	煮熟区	水浸区	煮熟区	水浸区	煮熟区	生 区	煮熟区	生 区
試験開始時体重	kg 73.6	kg 74.2	kg 68.9	kg 69.7	kg 22.3	kg 22.3	kg 21.8	kg 21.1	kg 45.6	kg 46.0
試験期間中増体量	30.8	24.2	15.2	15.4	22.7	22.1	16.9	7.9	26.8	22.1
給 與 乾 物 量	208.471	189.950	82.408	83.402	95.843	89.977	44.796	38.147	89.772	88.082
1kg 増体当 D.M	6.769	7.849	5.422	5.416	4.222	4.071	2.651	4.829	3.350	3.986
1kg 増体当 T.D.N	5.531	6.414	4.441	4.436	3.086	2.976	2.052	3.737	2.593	3.085

なお、澱粉粕を用いた第 1 次肥育試験における屠肉調査の結果、屠肉率は煮熟区においてややすぐれ、脂肪の割合もやや多いが、肉質、脂肪の質及び脂肪の融点においては差はなかつた。1 疋増体に要する飼料費を計算した結果、甘藷に関しては、燃料費を考慮しても、中豚において両区において差はなく、幼豚においては煮熟区が有利となつている。澱粉粕の場合には、第 1 次肥育試験 (澱粉粕の配合割合 59~62%) においてのみ燃料費を考慮しても煮熟区がやや有利となつている。以上の結果を要約すれば次の通りである。

即ち、甘藷を生そのまま給与すれば、手数と燃料費においてやや節減しうるが、生後 5 ヶ月以下の幼豚に対しては嗜好並に食欲の点より劣り、發育に影響するので、煮熟して給与した方がよい。生後 6 ヶ月以上の中豚に対しては發育の差はみとめられず、飼料費、燃料費からみて生甘藷で給与した方がよいと思われる。

澱粉粕の場合は、両区間にその發育及び増体において差は殆んどなく、飼料配合の如何によつては略々同様な成績をあげることがうかがえる。しかし、幼豚、及び肥育豚でも澱粉粕の配合割合が多い場合には煮熟した方がよいようであるが、それらの点についてはさらに試験を経て検討を加えたいと考えている。

*九州農業試験場